

bethel hospice letter spring

ホスピスだより

tender loving care vol.17



松山ベテル病院 ホスピス病棟

〒790-0833

松山市祝谷6丁目1229番地

TEL 089(925)5000

FAX 089(925)5599

ホームページ <http://www.bethel.or.jp/>



医療法人 聖愛会
松山ベテル病院

医師：坪田 信三



昨春からホスピスで勤務している坪田信三です。前任地では、がんから良性の痛みなど様々な患者の診療を行っていました。がんの痛みは原因や増悪因子が単一でないことが多く、治療に難渋することがあります。痛みは、様々な感情の影響を強く受けます。痛みを緩和させるためには、言葉で表現されることと内なる声を聞き分けることが重要です。ホスピスにおける痛み治療の基本はモルヒネを始めとする薬剤であることは言うまでもありません。ただ薬剤を投与するだけでは、穏やかな死にはつながりません。それを教えていただいた患者さんを紹介します。生前に提示する許可は得ております。40代の男性のAさんが、腹部内臓のがんによる腹痛のため入院されていました。痛みの緩和のため相談を受け、神経ブロックを行う事になりました。神経ブロックの前夜から高熱が出、全身状態が急激に悪化しました。私は体のことを考えると中止すべきとAさんと話しました。患者さんは神経ブロックを目的に入院している、これもできなかったら生きている希望がないと真顔で言われました。普段は穏やかなAさんの迫力には私は圧倒され、最終的には神経ブロックを行いました。少し全身状態が改善した時、Aさんは妻の猛反対のなか退院されました。Aさんは、神経ブロックを受け痛みが緩和できたので、今後は大切な息子（3歳）と一緒に過ごしたい、ただそれだけを希望するだけと話されました。Aさんは病気で苦しんでいる姿を息子には見せたくないとの思いが強く、この思いがAさんの気迫になったと私は理解しました。Aさんを通して、私は患者さんの想いに全力で立ち向かい、寄り添うことを大切にされたケアが重要性であると痛感しました。ベテル病院では、この学びを実践していく所存です。よろしくお願いいたします。



管理栄養士：白石 由美

私がベテルに管理栄養士として入職し、ホスピス病棟に何うようになってから、もうすぐ十年になります。その頃は病床数が21と今より17床ほど少なく個室ばかりでした。最初の頃、お部屋にお邪魔するのにとても緊張していた事を思い出します。

新人の栄養士がしどろもどろ説明するのを、しんどさをこらえながら聞いてくださり、「ありがとう、お願いします。」のお言葉をいただいた時は、役に立つ嬉しさでいっぱいでした。

この病院に来て初めて“ホスピス”という食事のあり方を感じる事が出来たのです。

それまで病院給食の役割は、治療や療養に比例して食事療養するものだと思っていましたので食事のあり方を考えさせてくれた大きな転機でした。

この十年間、患者様それぞれ、色々な食事のスタイルがありました。

お寿司やから揚げなど嗜好を楽しまれる方、ジュースや汁物の液体を中心に摂られる方、量が食べられないので食事が半量とあっさりゼリーのセット等、患者様の数だけ食べ方がありました。

“栄養の量を見るのではなく質を見る。”栄養士の側から患者様の気持ちになって寄り添ってみなければ、と教えてくれたのは中橋院長はじめホスピス病棟のDr、看護師さん、介護士さんでした。

今、外食産業が充実しており、お金を出せば簡単に美味しい物が食べられる便利な世の中です。そんな飽食の時代だからこそ患者様から少量のすまし汁で「うまかった。」との声を聞いた時は、これが本当の“ごちそうさん”なんだなあと思いました。

昨年放映された“ごちそうさん”というドラマにも食べる人の心からの“ごちそうさん”が語られていました。(1人の女性が家族や周りの人に、美味しいものを食べたさせたい思いで、知恵をだして“ごちそうさん”な料理をふるまうお話です)

給食で“ごちそうさん”な料理を出すのは大変だと思いますが、患者様に寄り添い、その人らしい食事が出来たとき“ごちそうさん”と言ってくれるでしょうか。

日々コツコツ邁進あるのみ・・・合掌



ホスピス緩和ケア病棟でおこなわれたイベントの紹介

8月ビアガーデン

スタッフ・ボランティアさんで準備しました。



9月観月祭



ホスピスギャラリー作品展



50歳を過ぎて、手習いで始められたそうですが、今では筆や紙にもこだわり、県展にも出展されるくらい、本格的にされているそうです。繊細な色使いが、とても鮮やかでした。



ボランティア募集しています！！

病室へのティーサービスにご奉仕くださる方、病棟のお花やベランダの園芸のお世話をしてくださる方、チャペルでのレクリエーションにご協力くださる方等々。
※「聖愛会ボランティア説明会」(無料)の受講が必要です。心身ともに健康な方で、定期的・継続的に活動いただける方の問い合わせをお待ちしております。

TEL : (089) 925-5000 FAX : (089) 925-5599 E-mail : volunteer@bethel.or.jp
(ボランティア委員会 担当：森)



ホスピス献金をお願いします!!

ホスピス献金は、ホスピス病棟や難病病棟の援助等、(医)聖愛会の諸活動の援助の為に(医)聖愛会に寄付として頂いております。

皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

★現金送金★

〒790-0833 松山市祝谷6丁目1229番地
松山ベテル後援会(松山ベテル病院内)

★郵便振替口座★

口座番号：01610-2-25364 名義：松山ベテル後援会

※「ホスピス献金」として献げる旨と「金額」をご記入ください。



編集後記

記録的な暑さだった今年の夏も、朝晩少しずつ過ごしやすくなってきました。発行が遅れ遅れとなりこの時期になってしまいました。記事を書いて頂いたお二人の(夏の様に)あつい想いを伝える事が出来ホッとしています。

編集委員 坪田・實好・稲田・戸田